

平成23年4月28日
北九州市環境局環境未来都市推進室
担当課長：池上 修、担当係長：富本 昇一
TEL：582-2630

「九州環境技術創造道場」

平成23年度受講生募集

～ 廃棄物技術の専門実務家の人財育成 ～

1 趣 旨

本市が進める「世界の環境首都」づくりの一環で、優れた環境人財の創出を目的とする「九州環境技術創造道場」を開催しますので、次のとおり平成23年度の受講生を募集します。

この道場で育成する人財は、環境、特に廃棄物分野での実務的な専門知識を有する気概のある技術者であり、受講後は主として九州地域ひいてはアジアの廃棄物問題の総合的な技術者、環境ビジネスのリーダーとしての活躍を期待するものです。

講義では、処分場管理・再生、汚染土壌とその修復、生活環境の修復などの技術について、国内外の最先端の情報を取り入れながら講師との合宿形式による少数精鋭の講義及び討論を行います。

講師陣には、本市エコタウンの有する人的ネットワークを活かして、国内でも有数の大学・民間企業等の技術者を招き、知識偏重教育ではない双方向での討議・交流を行うことで、新たな視点でのビジネス創造や技術開発、環境政策に長けた人財育成が可能となります。

将来的には、循環型社会の構築に資する3R(リデュース、リユース、リサイクル)や中間処理の技術など、多分野での人財育成を目指します。

2 特 色

主に九州、アジア地域での廃棄物分野の専門技術者を育成

北九州エコタウンを中心とした地域の諸施設を活用

一流講師陣による大学院レベルの質の高い講義

少数精鋭でのゼミ形式(レポート、自主研究重視)による充実した講義内容

廃棄物・土壌汚染等に関する先進かつ実用性の高い技術の習得、施設見学

講師との双方向討議により発想力、考察力を育成

修了後には「九州環境技術創造道場」会員となり、会員間ネットワークの活用、講師陣への継続的相談が可能

3 これまでの成果

平成16年度からこれまでに7回開催(民間・行政から164名が道場を修了)

年度別内訳：16年度19名、17年度22名、18年度19名、19年度26名、

20年度24名、21年度27名、22年度27名

道場修了後においても、修了生が新聞(九州環境技術創造道場新聞)を作成するなど、相互交流を継続

道場修了後、講師と受講生が所属する企業との間で共同研究が実現

4 概 要

- (1) 名 称 「九州環境技術創造道場」
- (2) テーマ 「廃棄物管理を中心とした総合環境技術」
- (3) 主 催 北九州市
- (4) 道場長 花嶋 正孝（福岡大学名誉教授・元 廃棄物学会会長）
- (5) 運 営 特定非営利活動法人 環境創造研究機構
- (6) 会 場 北九州ハイツ
北九州市八幡西区の場町 1 - 1
TEL 093-631-5582
- (7) スケジュール 平成 23 年 7 月 22 日(金) ~ 7 月 24 日(日) 第 1 回講義（開講）
平成 23 年 8 月 26 日(金) ~ 8 月 28 日(日) 第 2 回講義
平成 23 年 10 月 28 日(金) ~ 10 月 30 日(日) 第 3 回講義
平成 23 年 11 月 18 日(金) ~ 11 月 19 日(土) 現地視察（宮崎）
平成 24 年 1 月 20 日(金) ~ 1 月 22 日(日) 第 4 回講義（閉講）
- (8) 受講にかかる費用
受講料 90,000 円 / 年（全 4 回分）
（受講料は一括納付制）
宿泊費（北九州ハイツ） 18,000 円 / 回程度 [2 泊 3 日全 6 食]
現地視察費 交通費・宿泊費等（宮崎視察[予定]）
その他 会場（北九州ハイツ）までの交通費等
- (9) 受講資格 主として九州地域の環境関連企業に従事する若手技術者及び自治体職員等。
- (10) 募集人員 25 名程度
- (11) 申込方法 別紙の受講申込み票に必要事項を記入のうえ、郵送または FAX にて事務局へ提出。
- (12) 申込期間 平成 23 年 4 月 28 日（木）～平成 23 年 5 月 31 日（火）
- (13) そ の 他 受講生の決定にあたっては、提出された受講申込み票をもとに、年齢、経歴、意欲等について、道場長と運営委員が審査を行い、申込者全員に審査結果を通知します。決定された受講生には、受講料の納付期限や納付先等について、別途連絡します。

事務局

特定非営利活動法人 環境創造研究機構
〒810-0041 福岡市中央区大名 2-10-4 D 棟 807 号
TEL/FAX 092-725-9300 担当：古賀
北九州市環境局環境未来都市推進室
〒803-8501 北九州市小倉北区城内 1-1
TEL 093-582-2630 FAX 093-582-2196
担当：荒川、富本

平成23年度 九州環境技術創造道場 講義日程表

日程	コマ	時間	第1回 H23.7.22-7.24 最終処分場 開講式	第2回 H23.8.26-8.28 土壌汚染・有害物質	第3回 H23.10.28-10.30 最終処分場	第4回 H24.1.20.-1.22 新技術、まとめ	
1 日目	午前	1	10:30	1 持続型社会概論 【岡本】	1 土壌汚染の現状 (土壌汚染の現状、メカニズム等) 【伊藤】	1 現地見学及び講義 ・廃棄物研究施設 ・福岡大学資環研	1 これからの最終処分場 (WOW・早期安定化技術・再生・資源保管) 【樋口】
		2	13:00	2 廃棄物工学基礎 ①地盤工学及び水文地質 【渡辺】	2 環境債務 (土壌汚染における紛争事例-法律の解釈等) 【山本】	・実証研究エリア施設	2 クローズドシステム処分場 【押方】
		3	14:40	②演習 【渡辺】	3 汚染土壌の調査・対策 (調査法、対策、新技術) 【伊藤】	・エコタウン企業視察	3 塩類対策と再利用 【牛越】
		4	16:20 17:50	3 立地と環境アセスメント 【樋口】	4 リスクマネジメント (企業リスク、情報開示、土地売買等) 【山本】	・海面処分場 ・その他環境関連施設 【樋口】	4 廃棄物物流 【川崎】
	午後			グループ討議	グループ討議	グループ討議	グループ討議
2 日目	午前	5	8:30	4 最終処分場システム 【樋口】	5 演習 事例対応、企業リスクマネジメント 【山本】	2 浸出水処理システム 【牛越】	5 住民対応とリスクコミュニケーション 【中島】
		6	10:10	5 廃掃法について 【由田】	6 不法投棄等による環境汚染と修復 【西田】	3 シャ水工 【押方】	6 CDMについて 【栗田】
		7	12:40	6 廃棄物工学基礎 環境化学(バイオ、POP s 等) 【堀井】	7 地下水汚染 (地下水理、汚染メカニズム、解析例) 【伊藤】	4 不適正処分場の適正化 (キャピラリーバリアについて) 【興梠】	7 受講生によるプレゼンテーション 道場で学んだことを活かして、各自、環境 関連(廃棄物)のテーマを設定し、パワーポ イントを用いてプレゼンテーションを行う。
	8	14:20	環境土壌学 【島岡】	8 廃棄物・汚染土壌処理業 【嶋本】	5 最終処分場維持管理の課題と対策 【中村】		
	9	16:00 17:30	③演習 【堀井、島岡】	9 汚染土壌と微生物 (汚染とDNA、バイオ浄化) 【谷口】	6 循環型社会について 【鹿子木】		
午後			グループ討議	グループ討議	グループ討議	【運営委員】	
3 日目	午前	10	8:30	7 埋立地の安定化 安定化システム(1) 【島岡】	10 演習 事例対応・調査、対策と技術 【伊藤】	7 海面埋立 【島岡】	8 イト'ネアスパ'ヤ市におけるコンボ'システムの 開発普及 【高倉】
		11	10:10 12:00	安定化システム(2) 【堀井】	11 討議 【花嶋、伊藤】	8 溶融 【長田】	9 討議 【運営委員】
				解散	解散	解散	閉講式(修了証書授与等)

*現地視察(宮崎)平成23年11月18日~19日

九州環境技術創造道場 講義概要

第1回 最終処分場 I (H23.7.22~H23.7.24)

【講師名】

1	持続型社会概論	【岡本】
<p>現在日本の社会ニーズからみた「ストック型社会転換の必要性」について学ぶ。ヨーロッパの先進諸国は日本より収入が少ないものの、生活にはゆとりが感じられる。この原因について検証し、人口減少の日本が今後どのように進むべきか提言を行う。</p>		
2	廃棄物工学基礎 I	
<p>①地盤工学及び水文地質</p>		
<p>○処分場が立地する地盤や地形の成り立ち及び岩盤や堆積物の物性や性質について、構造物建設目的とリスク対応目的の両面から解説し、処分場建設に際しての地盤工学上の留意点を学ぶ。 ○最終処分場の計画・建設に当たっては、地質と地下水との関連および地下水の挙動を理解して、施工、防災、維持管理に活用する事が重要である。ここでは、水文地質学の一般を紹介すると共に、「処分場建設と地下水」について、数々の事例から考慮すべき地下水問題について学ぶ。</p>		
<p>②演習</p>		
<p>地形図をもとにした最終処分場の選定、物理探査結果の読み方、地下水水質、地下水流れについて演習を行う。</p>		
3	立地と環境アセスメント	【樋口】
<p>環境アセスメントを進めるにあたって環境要素と調査項目等についての講義と、インパクトマトリックス作成などの演習を行う。</p>		
4	最終処分場システム	【樋口】
<p>最終処分場の機能、施設の機能を学び、廃棄物管理システムの中での最終処分場の位置づけ、最終処分システムの中での諸施設の位置づけを理解する。また循環型社会における最終処分場のあり方について考える。</p>		
5	廃掃法について	【由田】
<p>廃棄物問題が大きく急増して来た近年、1970年に廃棄物処理法に制定され、それ以降、廃棄物問題の急速な進展と相まって次々と改正が行われ、廃棄物の適正処理から資源有効利用への変遷、2000年に制定された循環型社会形成法へと発展する。その間の諸法律の制定に主として携わった関係者として、日本の廃棄物法の体系の本質をお話したい。</p>		
6	廃棄物工学基礎 II	
<p>①環境化学(バイオ、POPs等)</p>		
<p>最終処分場の浸出水処理対策を検討する際に必要な環境化学の基礎について解説する。併せて、埋立廃棄物の化学性状や浸出水質の経年変化を理解するための基礎知識(生物化学等)についても学ぶ。また、実務面で有用な有害化学物質(重金属、DXNs等微量有害物質)の特性についても概説する。</p>		
<p>②環境土壌学</p>		
<p>埋立廃棄物は、生物・化学・物理学的作用を受けて安定な性状へと変化し、この過程は土壌化に通じる。ここでは、廃棄物の安定化を理解する上で必要な土壌の意義と役割、土壌の有機物、土壌の生物性・化学性・物理性について学ぶ。</p>		
<p>③演習</p>		
<p>廃棄物埋立地で見られる物理学・化学、さらには土壌学に関する現象の中で、定式化されているものを取り上げ、演習問題を解くことによって理解を深める。また、環境化学の講義で説明した中で、最終処分場分野に必要な化学反応・生物反応等の基礎について具体的な演習問題を行って理解を深める。</p>		
7	埋立地の安定化	
<p>①安定化システム(1)</p>		
<p>有機物主体の埋立廃棄物、焼却残渣等の無機物主体の埋立廃棄物では、安定化システムが大きく異なる。ここでは、有機物の微生物分解のメカニズム、炭素・窒素の循環、無機物の溶出機構など、埋立地の安定化において見られる様々な現象を学ぶ。</p>		
<p>②安定化システム(2)</p>		
<p>管理型最終処分場における安定化とは何か? 安定化を促進するためにはどのような方法があるのか? 等について、安定化促進実験の結果を事例として示しながら、埋立地の安定化手法と廃止促進のあり方を学ぶ。</p>		

九州環境技術創造道場 講義概要

第2回 土壌汚染・有害物質 (H23.8.26~H23.8.28)

【講師名】

1 土壌汚染の現状(土壌汚染の現状、メカニズム等)	【伊藤】
土壌汚染の原因から地盤中での拡散メカニズムを概説し、日本を中心とした土壌汚染の現状とビジネスとしての動向について解説する。	
2 環境債務(土壌汚染における紛争事例－法律の解釈等)	【山本】
土壌汚染対策件数の増加に伴い紛争事案も増加している。紛争に関する法律は土壌汚染対策法に限られておらず、むしろ土壌汚染対策法上の紛争は少ないといえる状況にある。これらの現状を実例に基づいて説明する。	
3 汚染土壌の調査・対策(調査法、対策、新技術)	【伊藤】
土壌調査の課題と方向性、汚染土壌の対策工法の考え方、新技術について解説する。また、併せて今後の土壌汚染浄化技術の方向性についての意見交換を行う。	
4 リスクマネジメント(企業リスク、情報開示、土地売買等)	【山本】
土壌・地下水汚染リスクに関して、土壌汚染対策法と企業リスク、情報開示のポイント、土地売買における問題点・注意事項について、現場経験に基づく具体的事例に重点を置いた解説を行う。	
5 (演習) 事例対応、企業リスクマネジメント	【山本】
土壌・地下水汚染の具体的事例に基づき、基本事項を踏まえ、企業リスクマネジメントの問題点、あり方などについて考える。	
6 不法投棄等による環境汚染と修復	【西田】
不法投棄による環境汚染が生じた場合の対応について、社会的側面(原因者に対する法的対応・財政支援制度)と技術的側面(調査方法、対策手法、評価手法)から、三重県桑名市事案を事例に解説する。	
7 地下水汚染(地下水理、汚染メカニズム、解析例)	【伊藤】
地下水理の基礎、汚染物質の種類と拡散の基本的性質などを概説し、基本的なメカニズムを中心に評価・予測を行うためのシミュレーションの解析例などについて解説する。	
8 廃棄物・汚染土壌処理業	【嶋本】
一般廃棄物、(特別管理)産業廃棄物、汚染土壌、埋設廃棄物、災害廃棄物などの収集運搬、中間処理、最終処分、再資源化業務の現状を大栄環境グループの取り組み事例を中心に紹介する。	
9 汚染土壌と微生物(汚染とDNA、バイオ浄化)	【谷口】
硫化水素は硫酸還元菌、アンモニアは硝酸還元菌、メタンはメタン生成菌と、それぞれのガス産生に微生物が関与していることは古くから知られており、また酸化分解する菌も存在する。ここでは、土壌の複雑な細菌叢を培養せずに一度に検出する方法を学び、廃棄物処分場のガス対策に生かす。	
10 (演習) 事例対応・調査、対策と技術	【伊藤】
これまでの講義内容を踏まえ、現実の問題に近いケースを設定し、土壌汚染問題に対する技術的対応などについて考える。	
11 討議	【花嶋、伊藤】
第2回の課題についての討議や、最終講義での論文発表におけるテーマの決定等についての議論、相談を行う。また具体的な土壌汚染例および不法投棄現場をベースにしたリスクマネジメントから技術的対応について共に考える。	

九州環境技術創造道場 講義概要

第3回 最終処分場Ⅱ (H23.10.28~H23.10.30)

【講師名】

1 現地見学及び講義	【樋口】
北九州エコタウンにおける技術開発・実証研究やエコタウン企業、海面処分場の視察、及び、福岡大学資源循環・環境制御システム研究所と新日鉄エンジニアリング北九州環境技術センターにおいて講義を行う。	
2 浸出水処理システム	【牛越】
管理型処分場より排出される浸出水の処理システム(集水、取水、調整設備、導水設備、水処理設備)等に関して解説すると共に、調整設備、浸出水処理設備の規模の決定法およびBOD、COD等の汚濁物質を処理し環境負担を低減する浸出水処理技術について学ぶ。	
3 しゃ水工	【押方】
埋立地には、浸出水が外部に流出して地下水等を汚染しないよう難透水性の層や膜が設けられている。ここでは、しゃ水工のあり方、技術基準、計画・設計・建設・維持管理における留意点などについて学ぶ。	
4 不適正処分場の適正化(キャピラリーバリアについて)	【興梠】
一部の産業廃棄物最終処分場問題に端を発した住民不安の拡大等を背景に、最終処分場の信頼回復を目的として平成10年に技術基準の強化、維持管理基準及び廃止基準の明確化等、廃棄物処理法の抜本的な改正がなされた。このような背景の下で、大野城市は処分場のカバーリングにキャピラリーバリア工法を採用した。この技術の実用例が少ないので、この技術の有効性や問題点を中心に紹介する。	
5 最終処分場維持管理の課題と対策	【中村】
準好気性最終処分場の維持管理とは、具体的にどのような業務なのか、また、その維持管理業務の現状と課題を抽出し、課題解決の糸口について考察する。	
6 循環型社会について	【鹿子木】
全国エコタウンの一番バッテリーとして、容り法の立上げに携わり14年、PETボトルリサイクルの最前線で感じている課題や重要な視点を紹介し、自分なりに目指す「循環型社会について」をお話したい。	
7 海面埋立	【島岡】
海外ではあまり存在しない、我が国の固有とも言える海面埋立処分である。陸上埋立処分と比較しながら、(1)海面埋立処分の社会資本としての位置づけ、(2)海面埋立処分の安定化メカニズム、(3)解決すべき課題等について述べる。	
8 溶融	【長田】
廃棄物を焼却や溶融処理した後の残渣を再利用するために、適切な溶融処理を行えば再利用可能なスラグとすることができる。ここでは、廃棄物の残渣を有効利用するための溶融処理方法について学ぶ。	

九州環境技術創造道場 講義概要

第4回 新技術、まとめ (H24.1.20~H24.1.22)

[講師名]	
1 これからの最終処分場 (WOW・早期安定化技術・再生・資源保管)	【樋口】
埋立前処理、既設処分場早期安定化、資源化処理のための廃棄物洗浄システムについて、研究開発状況、実施例を解説する。	
2 クローズドシステム処分場	【押方】
クローズドシステム処分場は埋立地の上部に覆蓋を設け、景観や地域環境に配慮するとともに埋立地内外の各種要因や処分場の機能を制御できる施設である。ここでは、このシステムを用いた処分場の実施例から現状の技術及び将来のあり方について学ぶ。	
3 塩類対策と再利用	【牛越】
高濃度の塩類を含む浸出水、焼却灰洗浄排水等を脱塩処理した場合、脱塩処理水と共に濃縮排水が発生する。ここでは、濃縮排水中に含まれる塩類を電解法、乾燥精製法等により工業的に再利用する技術について学ぶ。	
4 廃棄物物流	【川崎】
廃棄物資源の最適な物流システムについては十分な具現化が図られていない。トラック中心の廃棄物(静脈)輸送に加えて、JR貨物、船舶輸送等を組み合わせた、正にCO ² 削減も視野に入れた輸送モードの最適化が必要である。エコタウン事業の経験も踏まえ、持論を展開する。	
5 住民対応とリスクコミュニケーション	【中島】
不適正処分場の環境修復に関して、住民と行政の「対立構造」の状況から、「協議の段階」、「協働・協創の段階」への変遷のプロセスにおける建設的で双方向のリスクコミュニケーションの重要性等について、三重県四日市市事業を事例に解説する。	
6 CDMについて	【栗田】
京都議定書に基づき世界各地で実施されているCDMプロジェクトの概観と清水建設が取り組んでいる埋立処分場メタン回収プロジェクトについて解説を行う。	
7 受講生によるプレゼンテーション	【運営委員】
道場で学んだことを活かして、各自、環境関連(廃棄物)のテーマを設定し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。	
8 インドネシア国スラバヤ市におけるコンポストシステムの開発普及	【高倉】
スラバヤ市におけるコンポスト技術の開発普及事例を通じて、コンポスト技術の基礎理論の整理と海外協力時の現地での技術の最適化の重要性について解説する。	
9 討議	【運営委員】
全講義を振り返っての総括的な討議を行う。またこの道場を通じて得た知識、人脈の活かし方等についての議論、意見交換を行う。	



九州環境技術創造道場スタッフ

< 道場長 >

花嶋 正孝

福岡大学名誉教授

北九州市顧問
中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会長(H13.4-H17.1)
廃棄物学会会長(H6.5-H8.5)、福岡県リサイクル総合
研究センター長、NPO・LSCS 研（特定非営利活動法人
最終処分場技術システム研究協会）最高顧問等、
数多くの委員会委員を務める。
平成 20 年 6 月に環境大臣賞（産学官連携功労者表彰）を受賞。



< 運営委員 五十音順 >

伊藤 洋

北九州市立大学大学院教授

工学博士、技術士（総合技術監理・建設）。ゼネコン・コンサルを経験。「土壌学」「地下水理学」「水循環」で活躍。「地下水環境・資源マネジメント」「土壌汚染と企業リスクマネジメント」など著書・論文多数。



押方 利郎

福岡大学研究推進部教授

工学博士、技術士（衛生工学）
廃石膏ボードや廃乾電池等のリサイクル技術・システムの共同研究開発を主として福岡県下の企業と産学官連携により推進中。「ふくおか石膏ボードリサイクル研究会」代表を務める。



島岡 隆行

九州大学大学院教授

工学博士、「福岡県環境審議会」委員
「原状回復支援事業技術検討委員会」
委員長、土木学会、廃棄物資源循環
学会、水環境学会、地盤学会等、数
多くの委員会委員を務める。



樋口 壮太郎

福岡大学大学院教授

福岡大学資源循環・環境制御システム研究所所長

工学博士、技術士（衛生工学）
「最終処分場安定化促進研究会」代表
「埋立地再生総合技術研究会」代表
「WOW システム研究会」幹事長等で活躍。
著書「最終処分場の計画と建設」ほか多数。



堀井 安雄

クボタ環境サービス㈱

工学博士、「廃棄物最終処分場環境
保全対策調査検討会」委員ほか数多
くの委員を務める。香川県豊島の高度
廃水処理施設の技術監理責任者。



< 講師陣（講義登場順） >

岡本 久人

次世代システム研究所 所長
生物定量評価研究会副会長
九州国際大学客員教授



これまでに新日鐵、同ロー事務所駐在員、IT関連企業、環境関連企業を経て現在に至る。著書「野鳥調査マニュアル/定量調査の考え方と進め方」(1990)、「45分でわかる未来へのシナリオ『ストック型社会』」(2007) など多数。

渡辺 俊一

(株)エイト日本技術開発
ジオエンジニアリング事業部プロジェクトマネージャー
技術士（応用理学）



地盤工学会、応用地質学会等に所属。
最近では、シミュレーションを用いた最終処分場からの漏水や地下水汚染についての業務を行っている。

由田 秀人

日本環境安全事業(株)取締役

兵庫県、厚生省を経て平成13年環境省入庁。
平成17年7月より環境省廃棄物・リサイクル対策部長を務める。2008年退官後、財団法人日本環境衛生センター特別参与を経て日本環境安全事業株式会社取締役役に就任。



山本 勇

(株)アースクリエイト理事

地層診断・修復簡易化研究会創始
環境経営学会理事
著書「土壌・地下水汚染と対策」、
「土壌汚染の現状」など多数。



西田 憲一

三重県環境森林部廃棄物対策室主査

不法投棄による地下水のVOC汚染に対する環境修復を担当。道場5期生。



嶋本 文夫

三重中央開発(株)三重事業所開発課次長

1995年大栄環境グループ入社。廃棄物の収集運搬、中間処理（リサイクル）、最終処分、汚染土壌処理など事業開始に必要な全ての行政手続きを中心とした開発業務全般に携わる。

道場6期生。



谷口 初美

産業医科大学医学部微生物学教授

医学博士、薬学修士

専門：病原細菌の分子遺伝学

日本細菌学会九州支部長、日米

医学協力研究会専門部会委員、「ごみとDNA」研究会委員等、数多くの委員会委員を務める。



興梠 寿徳

大野城市環境生活部
部長



牛越 健一

住友電工ファインポリマー株式会社

工学博士、技術士（総合技術監理、
上・下水道、衛生工学）膜分離技術を
応用した浸出水処理装置、ルゲンマイ-法
によるDXNS分解装置等を開発。



中島 伸幸

三重県環境森林部廃棄物対策室主査

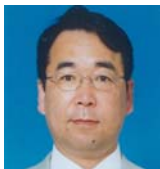
大規模な不適正処分場における環境
修復のための住民との合意形成を担当。
道場6期生。



中村 成典

大成管理開発㈱代表取締役

1978年に財団法人化学及び血清療法研究所)入所後、動物用ワクチン製造、継代細胞による大量細胞培養法開発に従事。1982年に大成管理開発㈱入社。2004年に代表取締役就任。道場5期生。



栗田 弘幸

清水建設㈱排出権プロジェクト推進部長
京都議定書に基づくCDMプロジェクトを世界各地で開発している。
近年は主に「埋立処分場メタン回収プロジェクト」を開発している。



長田 守弘

新日鉄エンジニアリング㈱環境ソリューション事業部 部長

技術士(衛生工学部門)、環境カウンセラー(事業者部門)、日本環境衛生施設工業会技術委員。廃棄物資源循環学会理事。同社製鉄分野の設備設計、廃棄物処理施設分野の技術開発、計画設計部門を歴任。埋立地再生研究会等の研究会にも参画。



川崎 順一

戸畑共同火力㈱代表取締役常務

昭和47年4月新日本製鐵㈱入社。
平成8年6月に総務部開発企画グループ部長となり、エコタウン事業の当初から参加。平成15年6月、新日鐵退職後、第3セクターひびき灘開発㈱専務取締役、日鐵運輸㈱常務取締役を経て、戸畑共同火力㈱代表取締役常務に就任。



鹿子木 公春

西日本ペトボトルリサイクル㈱代表取締役社長

工学修士。新日鐵入社後、八幡製鉄所で製鋼技術、生産設備企画、品質管理、生産管理等を経験した後、本社で全社事業の研究開発企画調整業務等を経て、1997年現職に就任。新規事業を通して全国最初のエコタウンと容り法の立上げに尽力、現在国が認定した登録事業者で構成している廃PETボトル再商品化協議会の会長を務める。



高倉 弘二

㈱ジェイベック若松環境研究所 所長代理
北九州市立大学環境国際工学部非常勤講師、技術士(環境部門)。

インドネシア共和国スラバヤ市において、生ごみコンポストシステムの開発普及に従事。コンポスト技術は「タカクラ・メソッド」と呼ばれ、廃棄物量20%の削減と緑溢れる都市に変貌。当技術は、東南アジアを中心に世界各国に広がりつつある。平成19年スラバヤ市長から感謝状を拝受。



平成 22 年度道場での講義風景等



花嶋道場長



少数精鋭の講義



受講生間での活発な討議



国内有数の講師陣による充実した講義



三重視察



実証研究エリアの見学

九州環境技術創造道場 受講申込み票

受講者氏名等	
ふりがな 氏名	_____
性別・年齢	男 女 (歳)
所属団体	_____
部署・役職	_____
業種 <small>(注)</small>	_____
勤務地住所	〒 _____
TEL	_____
FAX	_____
E-MAIL	_____
緊急連絡先(携帯電話など)	_____
TEL	_____
E-MAIL	_____
(注)業種は簡潔にお書きください。例)コンサルタント、廃棄物処理、自治体等	

受講希望者が多数の場合、以下の内容により選考いたしますので、できるだけ詳しく記入をお願いいたします。

1 これまでの経歴 (最終学歴、職歴など。特に廃棄物処理・管理、最終処分場に関する経歴については詳細に記述のこと。)
2 受講により習得したい主な課題
3 受講修了後における技術活用方策

なお、上記の個人情報については、本道場受講における選考及び連絡等においてのみ取扱い、その他の目的には一切使用致しません。